

# 総合的な学習指導案

平成15年10月29日(水) 第3校時

5年 指導者 相川 正巳

藤本 恵子

中村 功弘

## 1 単元名 井野川の歴史を調べよう

## 2 考察

### (1) 児童の実態 (68名)

本単元に関する本学年の児童の実態を、事前調査や授業における観察から、次のようにとらえた。

児童は、1学期の理科の「メダカの誕生」の単元で、井野川には、現在メダカは存在しているのかに興味を持ち、井野川で採集したメダカを飼育し、この単元の学習を進めたいという思いを強く持った。そこで、本流、支流とグループごとに探索はしたが、メダカは見つからなかった。しかし、支流では、沢ガニやカジカ、カワニナ等を見つけ、メダカは見つからなかったが、採集した生物から水がきれいな場所もあると実感している児童もいる。「今の井野川をどう思いますか」の質問に対して、「ゴミがあつてきたない川」「生き物はいるがきたない川」「水が汚れている」(60名)「きれいなところときたないところがある」(5名)「鯉がいてきれいな川」(1名)「前よりきれいになってきている」(1名)「水辺の楽校があつておもしろい」(1名)と答え、ほとんどの児童が今の井野川はきたない川であるととらえている。

関心・意欲・態度については、総合的な学習が好きと答えた児童が62名で、その理由としては、「自分で調べられるから・楽しいから・みんなとできるから・パソコンが使えるから・いろいろな場所でできるから」であった。一方きらいと答えた児童6名は、「難しいから・調べたいことが決まらないから・調べたいことが調べられないから・何をしたらよいかかわからないから」であった。以上の調査から、総合的な学習に関心・意欲があるといえる児童は多いと言えるが、1学期から取り組んでいる「米作り」の学習では、パソコンを使って調べることや田植えには積極的であったが、継続して行う水やり当番や稲の観察に消極的な児童もいたので、ワークシートの工夫やゲストティーチャーのアドバイスなどを取り入れて、関心・意欲・主体的な態度を高めていく必要がある。

課題を解決する力については、自分で調べたいことややりたいことが決められると答えた児童が40名、あまり決められないと答えた児童が16名、全然決められないと答えた児童が12名であった。今まで、調べたいことややりたいことをどんな方法で調べたかについては、「先生に聞いた・家の人に聞いた・地域の人に聞いた・パソコンで調べた・総合学習室で調べた・電話で聞いた・その場所に行つて調べた」であった。調べる方法については、各自いろいろな調べ方を経験しているが、グループで活動することが多いので、まず、自分の調べたいことをゲストティーチャーの話や昔の井野川の写真などを手がかりに決めさせ、それからグループでの活動を進めたい。活動していて困ったことがあるかについては、「グループでの話し合いがまとまらない・資料が少ない・パソコンで調べても

よくわからない・途中で何をしているのかがわからなくなる」等大多数の児童が行き詰まりを経験している。本単元では、地域の人や井野川に詳しい人、市役所、上州漁協等からの聞き取り調査を中心に活動を行うので、教師が事前にこれらの人から話を伺い、行き詰まったときには、誰に聞きに行くのか・軌道修正をするのか等のアドバイスをしたい。また、計画カードやポートフォリオを活用し、今自分がどの部分の活動を行っているのか、何がわかってきているのかをとらえさせながら進めたいと考える。

コミュニケーション能力については、調べたいことを聞きたい人に質問したことがあると答えた児童が52名、ないと答えた児童が16名であった。「米作り」の学習でもパソコンを中心に調べ学習を行った児童が多いので、地域での聞き取り調査の活動を多く取り入れる必要があると考える。

表現力については、「模造紙で研究の発表」がほとんどで、自分の思いや願いの発信は行っていない。他の学習でも、自分の考えや意見を発言する児童が限られているので、まとめの段階では、学習して感じたことや思い、未来の井野川に対する夢や願いなどを話す機会を設定していく必要があると考える。

## (2) 単元について

本単元では、井野川を環境の面からとらえるために、井野川を取りまく環境が歴史とともに大きく変化していることに着目して、調べたり、まとめたり、未来を考えたりすることを通して、身近な環境を大切にす気持を育てることをねらいとしている。

地域には、田んぼが広がり、二次的な自然も残されている。歩いて20分の所には井野川が流れている。児童は4年生の時の井野川学習で、井野川を題材に自然、生き物、水質、流れの速さ等を調べている。取り組んだテーマの中に環境に関するものを扱ったグループもあったが、興味の持続や資料不足から、井野川の環境に対しての関心を高められているかは疑問である。そこで、本年度は、昨年度十分に深められなかった井野川を取り巻く環境の変化に視点を当てて、環境学習に取り組ませたいと考えた。

2000年の新聞記事によると、井野川には94種類の生物が生息し、そのうち、魚類は21種類にものぼり、メダカも生息すると載っていた。昭和50年代、日本で一番汚れていた井野川にも細々と生き物が生息していたのである。それが、徐々にではあるが、地域の努力(ゴミ拾い・家庭排水・草刈り)、工場の努力(排水)、行政の努力(護岸工事・水辺の楽校・サイクリングロードの整備)によって復活してきていると考える。また、護岸やサイクリングロードも整備され、地域の人々がサイクリングをしたり、犬の散歩をしたりする憩いの川になりつつある。

そこで、児童が川や地域の人々とふれあう場面、関わり合う場面、向かい合う場面、生かす・働きかける場面を設定し、井野川歴史年表作りをすることにより、川は身近な自然環境であり、自分もその自然環境を守ったり、改善したりすることのできる一員としての自覚が高まると考える。その自覚や認識をもとに未来の井野川の環境に対する自分の考えを持たせることにより、地域の環境を大切にしたり、愛したりする児童を育てる上でも価値ある単元であると考えられる。

### 3 目標

井野川を取りまく環境が歴史とともに変化していることに着目して、調べたり、まとめたり、未来を考えたりすることを通して、身近な環境を大切に作る気持ちを育てる。

### 4 学習活動への支援及び留意点

- ・児童一人一人が主体的に取り組むようにするために、昔の写真やゲストティーチャーの話から、視点を環境に絞って歴史年表づくりをすることを伝え、自分の課題を決めるようにする。教師は、児童の思いを尊重し、見守りながら相談にのっていくようにする。
- ・各地区の区長には、事前に学習内容を知らせ、協力をお願いする。
- ・正観寺地区の児童にとっては、井野川は身近な存在ではないので、井野川の支流である正観寺川を対象に活動を行わせるようにする。
- ・自分たちでやり遂げたという満足感や喜びを味あわせるために、活動計画を試行錯誤しながら軌道修正させ、目的を達成する過程を大事にしたい。
- ・課題追求では、ワークシートを活用し、誰に、いつ、どんなことを、どのような方法で聞くかを事前に話し合わせたり、相手の都合を聞いたりさせながら、主体的に取り組ませるようにする。
- ・川の調査や聞き取り調査では、各地区における校外活動となるので、引率は教師が行い、川での活動の安全面については、事前に指導を行う。
- ・課題別にきれいだったときの井野川、大変汚れていたときの井野川、今の井野川について児童の祖父母、父母、地域の方に、事実、原因、取り組み、関わり、関心等幅広く取材調査させるようにする。
- ・歴史年表を作る「むかいあう」段階では、児童の発想を生かしたまとめかたを工夫させ、井野川を取りまく環境が時代ごとに変化していることに気づかせるようにする。
- ・自分たちの実践から考えたことや思い、夢のつまった未来年表をもとに、お世話になった区長さんや地域の方と未来の井野川について話し合わせるようにする。

### 5 本時の学習

#### 授業仮説

話し合いカードをもとに、歴史年表にはどんな内容をどんな方法でのせるのかを児童に自由に考えさせたり、表現させたりすれば、主体的に話し合いに参加し、歴史年表のイメージを持つことができるであろう。

#### (1) ねらい

歴史年表にどんな内容をどんな方法でのせるかを話し合い、自分たちが作る歴史年表のイメージを持つことができる。

#### (2) 準備

話し合いカード(グループ)

振り返りカード

( 3 ) 展開

学習活動	時間	教師の支援・留意点	評価の観点
本時のめあてをつかむ	5	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本時は、歴史年表をつくるための話し合いをすることを確認する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本時のめあてがわかる ( 観察 )</li></ul>
グループごとに自分たちがつくる年表のイメージを話し合う。	30	<ul style="list-style-type: none"><li>・ どんな項目をどのようにまとめるのかを話し合わせる。</li><li>・ 話し合う視点がわからず活動が進まないグループには、適宜助言する。( 集めた資料を項目ごとにわけさせるなど )</li><li>・ カードに話し合ったことをもとにした歴史年表のイメージもたせる。</li><li>・ 歴史年表づくりに必要な準備するものについても考えさせる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の意見や考えを進んでだし、話し合いに積極的に参加している。 ( 観察 )</li><li>・ 自分たちで考えた歴史年表のイメージが持てる ( 観察・ワーク )</li></ul>
本時の学習を振り返って、カードに記入する。	10	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本時の感想や次の時間にすることなどをワークシートに記入させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ワークシートに記入できたか。 ( 観察・ワーク )</li></ul>

## 導入

「今日は、集めた資料を整理し、井野川はいつどんな様子だったのか、どんなことがあったのか、なんでなったのかななどをどうにまとめるかをグループで考えます。」

(5分)

「これから2枚のカードを配ります。」

グループごとに2枚のカードを配布してください。

\* 1枚目の説明

「1枚目は、みんなが集めた情報を整理するのに使うカードです。」

「みんなで話し合ったことを**メモ書き**にしてください。」

「事実・聞いた人の思い・原因・取り組み・自分の感じたことなどを入れるとまとめるとき便利ですね。」

1枚目の相談は、20分です。

\* 2枚目の説明

「2枚目は、自分たちの足で調べた大事な情報をどうにまとめるのかを話し合うカードです。」

「1枚目で話し合ったことを**時代ごとにわかりやすく**どうまとめるかのイメージ(レイアウト)を話し合うカードです。」

「まとめるときは、この紙(模造紙を提示)を使うけど、今日は、小さな紙にここに、川の絵を入れようとか、ゴミを書こう、おじいさんやおばあさんの顔をかこうとか**いつどんなことがあったのかのイメージ(レイアウト)**をグループで作ってください。」

2枚目の相談は15分です。

## 展開

(35分) グループ間を巡視して、適宜アドバイスや支援をお願いいたします。

## 終末

今日の感想、次時の準備などをカードに書かせて下さい。

(5分)

**\* 時間がな**いときは、**チャイム**でおしまいに**して、4時間目の自習の時に書かせて下さい**